

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通統計室  
平成25年12月3日(火)公表

# トラック輸送情報

平成25年9月分

平成25年10月分は平成26年1月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成25年9月分）

平成25年12月3日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,194,439トンで、前月と比べ総輸送量が約186千トン増加したため、前月比103.7%（季節調整済み103.1%）となり、前年同月との比較では、約292千トン増加したため、前年同月比106.0%の実績であった。

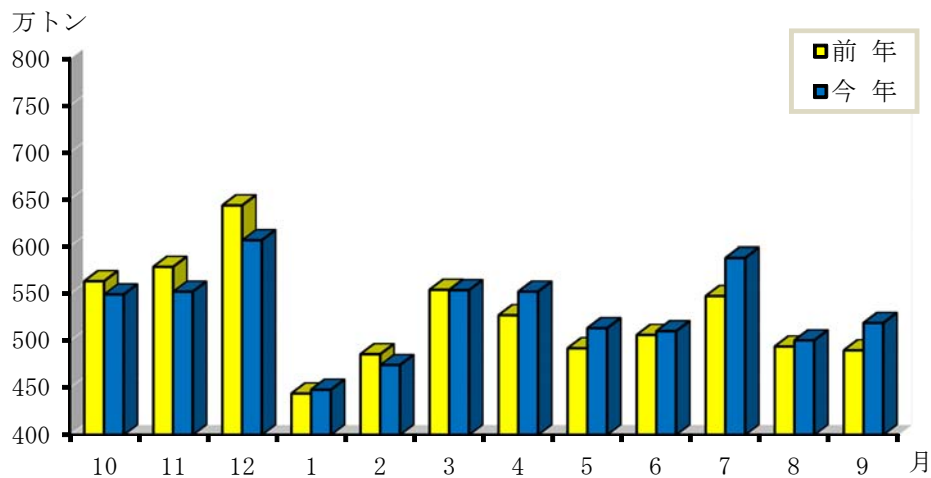
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ0.5日減少し、前年同月との比較では、0.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、230,864トンで、前月と比べ約13千トン増加したため、前月比106.0%となり、前年同月との比較では、約14千トン増加したため、前年同月比106.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

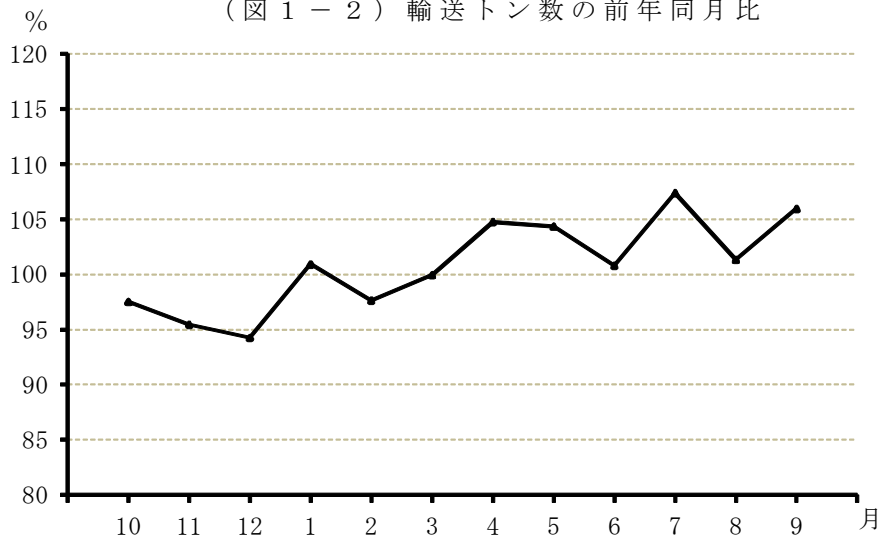
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

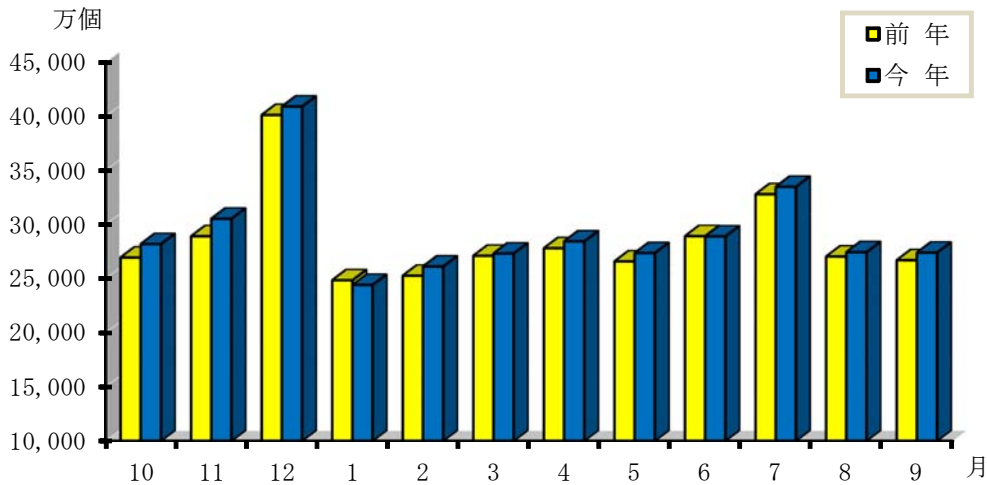


(2) 宅配便の概況

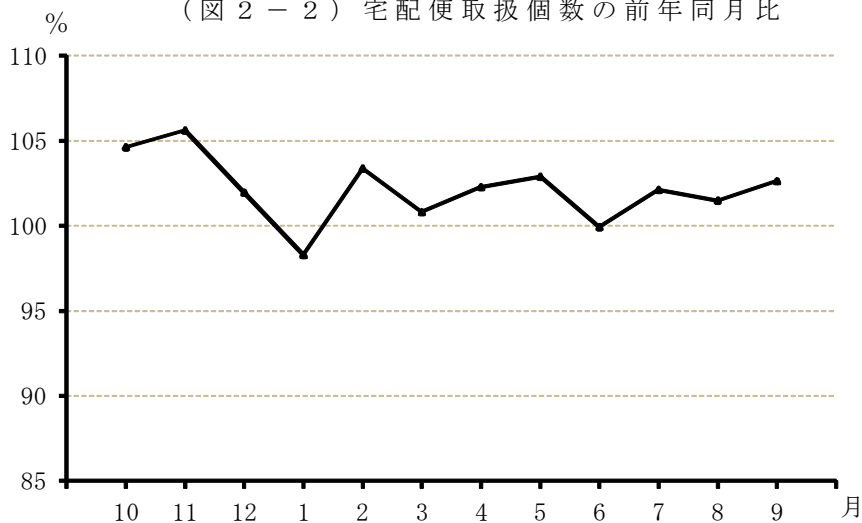
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 274,118 千個で、前月と比べ 約 456 千個減少したため、前月比 99.8% (季節調整済み 101.9%) となり、前年同月との比較では、約 6,975 千個増加したため、前年同月比 102.6% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「農水産品」を除く全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」で見られた。主な増加地域のうち、「機械」では、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、ほとんど全ての品目で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「日用品」で見られた。主な増加地域は、「化学工業品」では、神奈川、関東、愛知、兵庫で、「繊維工業品」では大阪で増加したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 ら ず	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		5	9	2	2			
							果物		4
	金属製品		7	14			その他の金属製品	北陸信越	4
	機械		11	9			機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	化学工業品		7	15				神奈川	7
繊維工業品		7	15				愛知、大阪	4	
食料工業品		3	17						
日用品	1	9	10	1			関東	4	
その他	1	6	11	1	1				
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	2				
	金属製品		5	15					4
	機械	1	4	14	1				4
	化学工業品		8	12	2		合成樹脂	神奈川、関東、愛知、兵庫	4, 7
繊維工業品		4	17	1			大阪	4	
食料工業品	1	5	14			飲料			
日用品	1	7	13		1	その他の日用品		4, 7	
その他		6	11	4					

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者782社/調査対象事業者数1,041社)の輸送量は、前月比 104.1%、前年同月比 104.1%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	104.1 %	101.2 %	103.3 %	104.2 %	120.7 %	105.0 %	98.5 %	106.9 %	104.4 %	103.0 %	104.8 %	
前 月 比	104.1 %	105.4 %	104.5 %	101.8 %	108.0 %	105.5 %	100.3 %	105.8 %	100.2 %	103.1 %	96.1 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比105.4%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「野菜・果物」、「水産品」、「動植物性飼・肥料」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比104.5%、対前年同月比103.3%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「水産物」が、また、「砂利・砂・石材」、「金属製品」についても輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「食料工業品」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比101.8%、対前年同月比104.2%であった。品目別では建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「機械」が、季節的需要減で「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比108.0%、対前年同月比120.7%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」が、また、「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比105.5%、対前年同月比105.0%であった。品目別では、景気の影響による貨物増により「機械」が、また、「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比100.3%、対前年同月比98.5%であった。品目別では、決算月による需要増により「食料工業品」、「機械」、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、夏季繁忙期の時期が過ぎたことにより飲料等の「食料工業品」の輸送が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比105.8%、対前年同月比106.9%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「金属製品」が、季節的需要増により「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比100.2%、対前年同月比104.4%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、また、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」が、建設関連の需要減により「機械」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比103.1%、対前年同月比103.0%であった。品目別では、建設関連の需要増により「金属製品」、「機械」が、季節的需要増により「食料工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物減により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比96.1%、対前年同月比104.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」、「日用品」、「金属くず」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	4			5				4	3	1		18
	減	1	1									1		3
2. 野菜・果物	増	7	2					1		1	3	2		16
	減	2	1	1						1		4		9
3. その他の農産品	増									1				1
	減													
4. 畜産品	増									2		1		3
	減	1										2		3
5. 水産品	増	4	3			1								8
	減											1		1
6. 木材	増	1	1			1				2	2	2	1	10
	減	1	2							1	1			5
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増					1								1
	減	2												2
9. 金属鉱物	増					1								1
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	10	3					2		2	1	2		20
	減	1								2	1	1		5
11. 工業用非金属鉱物	増									2		1	1	4
	減	1	2							1	3			7
12. 鉄鋼	増	2	1	1	2	1				2	4	4	2	19
	減		1			1					2	2		6
13. 非鉄金属	増					1				1				2
	減		1					1	2					4
14. 金属製品	増	1	3			2	1	2	4	4		7		20
	減					1		1	1			1		4
15. 機械	増	2	1			1	4	2	2	2	3	7		22
	減		1	1	2	2			2	2	3	2	1	14
16. セメント	増	4	1			2	3			2	1	2		15
	減	1					1					2		4
17. その他の窯業品	増		1				1							2
	減									2	1			3

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増											
	減		1		2			1	1			5
19.その他の石油製品	増	1	2									3
	減	3	2					1	2			8
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減							1				1
21.化 学 薬 品	増		1				1	1	1			4
	減								1			1
22.化 学 肥 料	増								1	1		2
	減	2	1		1			1				5
23.その他の化学工業品	増							2	1	2		5
	減		1	1								2
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	1		1	1	3	1	3	1		12
	減	1	3					1	1	2	1	9
25.織 維 工 業 品	増		1									1
	減							1	1			2
26.食 料 工 業 品	増		1		2		3	4	4	5		19
	減	2	5		2	2	3	8	1	6	1	30
27.日 用 品	増	2			2		1	1		1		7
	減	1	1	1	1		2		1	1	1	9
28.その他の製造工業品	増		1			2		2		3		8
	減	2	1	1		2		1	1			8
29.金 属 く ず	増							1				1
	減									1	1	2
30.その他のくずもの	増									1		1
	減								1			1
31.動植物性飼・肥料	増	4		1				1				6
	減		2						1	3		6
32.廃 棄 物	増		1		1			2		1		5
	減				1			2	2			5
33.輸 送 用 容 器	増									2		2
	減				1							1
34.取 り 合 せ 品	増		1			1		1		1	1	5
	減							2		3		5
35.そ の 他	増	1	2	1	2	1	1	2	1	2		13
	減		1	1	1		1		1	5	1	11